

もうマスクは取ろう 元の世界に戻るために

非常事態にあたってはリスクを瞬間的に冷静に分析して、必要最低限の対策を即時にとるのがリスクマネジメントである。

コロナについて論じる。果たして今はまだ非常事態なのか。状況の変化を冷静に判断するならば、もう収束宣言してよいのではないか。終息ではない収束である。コロナ以前のインフルエンザの流行であつても千数百万人がかかって約1万人が亡くなつていてもこれほどの非常対策を行わなかった。

3年間国民にマスクをさせたのは新型コロナウイルスの正体が知れずにワクチンも治療薬もなく、エクモも足りなかったからである。

今ウイルスが特定され弱毒化して風邪と同じ症状でほとんど重症化しなくなった。ワクチンが国民に行き渡り治療薬も出

来上がつている。病院が満床の訳でもなく全国でも死亡者がいなくなった。90歳、80歳の人間が毎日数人お亡くなりになるのは寿命である。本当に新型コロナで亡くなつていのか。誤嚥性肺炎で亡くなった方のご遺体にPCR検査して陽性と判断されただけではないのか。

時短を強制した人は謝罪すべき

このような状況で今まだ全国の国民にマスク、アルコールで手洗い、アクリル板といった2年前と同じ水準のパンデミック感染対策をとらせることが正しいのか。状況が変わつていのに同じことを続けるのは無能、無策、怠慢でないか。

対策自体の副作用もあり、金もかかり、社会経済を縮減させていることは誰もが認めている。

ひとりも死なない日が続いていく。これでもまだ非常事態並の対策が必要なのか、非常事態はすでに収束したのではないか。

これが国民がマスクをして、アルコールで消毒してアクリル板ごしに黙って食事しなくてはならないほどの事態なのか。いまだに手洗いは指の股から手首まで洗えと外科手術室並みの指導をしている。

人っこひとりいい風が吹き渡る公園でマスクをしたまま犬の散歩をしている。一口食べてマスクをしてまたマスクをして一口食べる。濃厚接触者と指名されるのが怖くて集会にも出れない。お風呂の中でビチャビチャのマスクを付けて頭を洗っている人がいる。

民事20年の時効期間までに 集団訴訟が起きるだろう

異常であることを異常と感じないのならばこれはもう病気である。1億人が3年間にわたる執拗な洗脳で不潔恐怖症にかか

つてしまった。国民をPCR検査ならぬメンタル検査をしたならばほとんど全員陽性である。あの頃は仕方がなかった、こんな対策も必要な時期があつたということは否定しない。しかし、国民を神経症にしてしまった過剰な行政指導と専門家の不作為は行政災害、メディア災害に他ならない。

5月にスピード結審したグロバルダイニング訴訟は飲食店への時短、課徴金は科学的根拠のない行政権の逸脱だったことを明らかにした。国立感染症研究所は空気感染を2022年3月28日まで認めずに飛沫感染と接触感染のみを対策した。空気感染を最大の感染原因としないのでその対策をとらずにおいて第三者認証とは何の冗談か。空気清浄機と空間除菌装置こそが認証要件ではなかったのか。

天井から垂らしたビニールでウイルスが循環して感染したという研究発表はまだないが常識で考えておかしな指導である。



危機管理コンサルタント 越智文雄の 時論・持論・自論

〈第4回〉コロナについて～まだ非常事態なのか

マスクを四六時中付けることで子どもも年寄りも必要な酸素が行き渡らない。

子どもの社会適応力が落ちて、知らずに高齢者の認知症が進む。安くないアルコールで手の皮膚を損なっている。子供の目にアルコールが入る事故もなくなつていない。アクリル板も黙食も飲食店の売り上げをどれほど減らしたことか。いわんや時短、酒禁止に至っては、科学的検証もせずこれを強制した人間は責任をとり謝罪するべきである。

非常事態は収束したのに 同じことを続けるのか

いままでの専門家と言われていた人々に果たしてこのようなことを判断する能力があつたのか。今はいったい誰が判断しているのか。根拠のない対策であつても自分が責任を取らなくてよいような過剰な判断をし続けているのではないか。

いま新型コロナウイルスの感染者が北海道内で1日400人を切り、

常識が通用しない社会になつてしまったのがコロナ現象だつた。飛沫感染のみの対策を言い立てて、早くからわかつていた空気感染の対策を徹底しないできた責任を専門家と行政はとらなくてならない。アルコール禁止、早く帰れとパトロールしていた人たちはいまから思い起こすと恥ずかしく思うのではないか。

強制的に客を減らされて、閉店して、自己破産して、失業して自殺した人たちに誰か謝つたのか。老後の蓄えを小さな店につき込んで力尽きた経営者たちにはやはり過ぎでしたと謝る行政責任者はいないのか。

過去のことに触れまい。しかし民事20年の時効期間までに集団訴訟が起きることは想像に難くない。

マスクを踊るYOSAKOI 異常と思わないことが異常

では、いまやるべきことはなにか。執拗な洗脳によつてメンタルに変調をきたしている国民

のケアである。マスクが手放せなくなつた主婦。外していいよと教師が言つても聞かない子どもたち。マスクをせずに自転車ですれ違つて睨みつける大人。ひび割れで痛い痛い泣いている子どもにアルコールを刷り込む母親。鼻が出ていると寝ている乗客を起すキャビンアテンダント。さわやかな風が吹き渡る札幌で全員マスクを付けて踊るYOSAKOI祭り。これを異常と思わないことが異常である。ちなみに今年のYOSAKOIで船橋から来た高校吹奏楽部チームの演舞はマスクを外して若い笑顔が最高だった。「熱中症対策のためマスクを外して踊らせていただきます」というアナウンスに拍手が湧いた。全チームがこれでよかったのである。目の前の空気が0.01秒で飛んでいく屋外でマスクはいらない。結局、YOSAKOIでクラスターは出なかった。北海道神宮祭でも出なかった。北大祭でも出なかった。

状況の変化、事態に即した判断ができないのか。一人も死なない不老不死の国はない。死なない病気にワクチンがいるのか。誰が見ても異常だった上海の都市封鎖と五十歩百歩だと気づかないのだろうか。ゼロコロナのために東京の2倍の都市を閉鎖し続けた習近平は異常である。

G7加盟国はみんなマスクを外している。世界中がマスクを外しても日本人だけ外せないのはなぜなのだろうか。

大通ビアガーデン、すすきの祭夏のイベントが目白押し

あまりに愚かな思考停止病としてYOSAKOIでは屋外の観客にアルコールスプレーで手指消毒を強制して回っていた委託ガードマンがいた。誰がこんなことをマニュアルに書き込んだのだろうか。これは同調圧力ではなくここまでやっているのだからと責任を逃げるための過剰判断であり明らかな愚行である。さて、YOSAKOIに限定

すると特定の責任者、イベント顧問の専門家と言われる人に行き着くのだろうか、これから夏の祭、オータムフェアとイベントが目白押しになる。3年ぶりの学園祭も復活し各地の夏祭りも今年は再開するだろう。それぞれのイベントでまたひとりたりとも感染させないという過剰規制が行われるかもしれない。

ドアノブをアルコールで拭うに改善されないマニキュア

もうマスクを外しましょう。新型コロナウイルスは空気感染であり、マスクは空気を通しません。アメリカCDCでは早くから接触感染の可能性は極めて低いと発表している。アルコールで手指消毒をする必要はないのではないか。手のひらには50兆個の菌があり、それでも人類は今まで絶滅しなかった。外科手術をする人や寿司職人は滅菌消毒してほしい。それ以外の人にはそこまでの必要はな

いと改めて専門家の口から言うて欲しい。科学的な事実に基づき解説して欲しい。指先に着いたわずかなウイルスが目玉を触り、鼻の穴をほじつたとして風邪をひくのだろうか。英国で鼻の穴にコロナウイルスをたらして人体実験を行い、50%が感染しなかったという研究発表があった。要は吸い込むウイルス量と免疫力の問題である。

食堂が汚れたテーブルの上を拭くのは当たり前として、学校の机や椅子の背までアルコールで拭く必要があったのか。いまだにドアノブや手すりをアルコールで拭うマニキュアが改善されず、続けている人々がいる。

ロシアのウクライナ侵攻を原因として電気料金が暴騰している。これから猛暑の中をクーラーを全開して生活することになる。空気感染のコロナを防止するには換気しかない。しかし窓を開けたままクーラーを全開にしても全く効かない。窓を開めると電気代が店を潰す。窓を開

けると熱中症になる。答えは窓を閉めたままクーラーを全開にしウイルス対策として滅菌型の空気清浄機か空間除菌装置を配置するしかない。これも金のかかる話ではある。

本稿は「危機的状況が収まったのならば普通の生活に戻るべき」という至極当然のことを述べている。

夏場の換気できない時期に新しい形のウイルスが蔓延する可能性はある。その対策を即座に打てるように岸田内閣は感染症危機管理庁を作ることを発表した。この2年半の混乱と対策を総括し、科学的に分析して、誤った事は誤ったと認め、今度こそ科学的に必要な対策を準備しておくことを求めたい。

〈筆者略歴〉

株式会社あかりみらい代表取締役。北海道大学卒業後、北海道電力入社。電気事業連合会企画部副部長、北海道洞爺湖サミット道民会議事務局次長、北海道経済同友会などを歴任。電力業界で初代の危機管理担当室長の経験から自治体・企業へのアドバイザーとして活躍。環境・エネルギー問題の専門家。(一社)次亜塩素酸水溶液普及促進会議代表理事、日本除菌連合の会長を務める。札幌にかがでる経済人ネットワーク主宰。